

NEWS



リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology

2003. No.

1

December

有限責任中間法人

日本リウマチ学会

LETTER



★効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等の詳細につきましては、製品添付文書をご参照ください。



口腔乾燥症状改善薬

指定医薬品

薬価基準収載

エボザック® カプセル30mg

Evoxac® (塩酸セビメリン水和物)

製造・発売元

いのち、ふくらまそう。

第一製薬株式会社

資料請求先

東京都中央区日本橋三丁目14番10号

ホームページアドレス

<http://www.daiichipharm.co.jp/>



▲改訂第2版 増補

■発行日

2004年2月20日

■市販価格

4,000円

■ページ数

P. 271



リウマチ学用語集

(中)日本リウマチ学会医学用語委員会では、2000年6月改訂2版増補を発行後、日進月歩の関連医科会の進歩に合わせ、可能な限り新しい用語や略号を収載したいと10数回に亘り、第3版の編集作業を進めてきたが、この度2004年2月下旬発行の運びとなった。

会員の先生方には、3月には配本が可能になると思いますが、第48回学会・学術集会(岡山市・2004年4月15日～4月17日)の会場において、販売させていただく予定でありますので、ここに発行と販売のお知らせ致します。会員の皆様のご活用を期待しています。

有限責任中間法人

日本リウマチ学会医学用語委員会

委員長/鳥巢岳彦 副委員長/佐々木毅

委員/金井芳之 鎌谷直之 後藤 真 近藤啓文 藤井克之

顧問/青木重久 渡辺言夫



(中) 日本リウマチ学会情報化委員会
委員長 澤井 高志

N
e
w
s
l
e
t
t
e
r
の
発
刊
に
あ
た
っ
て

(中)日本リウマチ学会、和文誌の廃刊については、同誌の43巻4号掲載されました宮坂信之編集委員長の巻頭言“和文誌「リウマチ」の廃刊にあたって”をお読みになったと思いますのでここで詳しくは述べませんが、法人化された(中)日本リウマチ学会を国際化のなかに位置づけていくため、英文学会誌 Modern Rheumatology (MR) を学会唯一の学術誌とし、さらに経済的な面も考慮するというで、評議員会、総会で承認されました。しかし、これまで和文誌が果たしてきた役割は学問的な面だけではなく、学会、各種委員、特に治療に関する内容、そのほか学会の開催、理事、評議員の選挙、リウマチ専門医、指導医、認定施設など学会からの「お知らせ」の面でかなり大きかったために廃刊の影響は大きく、これに代わるものとして学会では情報化委員会を通してホームページ、メールマガジン、ニュースレターの3つの方法で情報の提供を行うことに決定しました。

このなかで、ホームページは学会の方針、定款、理事会、各種委員会の任務など学会の根幹をなす情報を提供するものであり、メールマガジンは学会の開催、資格認定、薬剤に関する新しい情報など必要な内容を月2回の定期的な間隔で会員に「お知らせ」の形で配信することで、現在6号まで刊行されております。既にごらんになった方も多いと思われませんが、各委員会の活動報告、薬剤情報、学術集会、支部集会、認定関係、研修に関する情報などが掲載されております。

これに対してニュースレターの目的は紙媒体を通して会員へ情報を知らせることにあります。確かに現在は情報化時代といわれ、多くの方々がインターネットでホームページやメールを活用しております。しかし、未だすべての会員がこの手段を利用しているとは言い難く、これまで和文誌に掲載されていた情報が会員に届かない恐れもあります。したがって、学会では会員への情報伝達漏れを防ぐことを目的にニュースレターの発刊を決定いたしました。ニュースレターに掲載される内容は学術集会、支部集会、資格更新、研修の開催、新薬の情報などメールマガジンで配信される内容と一部重複しますが、この他に総説、学問的トピック、最近の治療の傾向、学会参加の感想、研究室や施設紹介、留学体験記さらには会員からの声など気楽に読むことができるものを掲載し、若い会員の方々にもリウマチへの親近感が一層深まるようにしていきたいと思っております。

このようにニュースレターは紙面を通しての学会からのお知らせと、(中)日本リウマチ学会を取り巻く新しい情報を提供することにあります。このニュースレターの編集委員には若い会員の方々をお願いし、新しい若い感覚で組み立ててもらおうと思っております。リウマチ学に限らず最近の学問や医療を取り巻く環境はますます厳しくなりつつありますが、そのなかを生きぬくためには情報の把握と、これに対する素早い反応が必要であり、そのためにもホームページ、メールマガジン、ニュースレターを三位一体の情報媒体として活用されることを希望いたします。

第48回日本リウマチ学会総会・学術集会の御案内

第48回日本リウマチ学会総会・学術集会は、第13回国際リウマチシンポジウムと併せて開催します。基本的には第47回日本リウマチ学会総会・学術集会の改善点を継承し、さらに一部新しい試みを付け加えました。以下に基本方針、日程、会場、演題募集の概要についてお知らせ致します。

第48回日本リウマチ学会総会・学術集会会長
岡山大学大学院医歯学総合研究科・機能再生・
再建科学専攻（整形外科）教授 井上 一

基本方針

- 1) 今学会の基本方針は「リウマチとバイオサイエンスの新世紀」と致しました
- 2) 会場は、会員のアクセスの利便を考慮して岡山駅周辺の岡山コンベンションセンター、ホテルグランヴィア岡山で行うことにしました。
- 3) 第13回国際リウマチシンポジウムを本学術集会の期間中に併せて行います。各分野の第一線で活躍する国内外の研究者を招聘し、最近の話題についての討議を重ねるとともに、研究面での交流を深めます。
- 4) 第47回の国際ワークショップを従来のシンポジウム、ワークショップに取り込んで海外の若手研究者にも参加していただき、研究者間の討論と交流を盛んにしたいと考えます。
- 5) 昨年同様、ワークショップと一般演題を併せてワークショップに統合し、ポスターでの採択率を上げてスケジュールに余裕を持たせると同時に、他のセッションにおいても討論に多くの時間を割けるようにします。
- 6) 新たにケースチャレンジと題し、治療方針の立てにくい例や難治例を中心に症例ごとに十分に討論していただく場を設けました。また、例年通り夕方には軽食と飲み物を用意してワインセッションとし、ポスター展示の会場で会員同志の討論・情報交換を盛り上げる工夫を凝らしています。
- 7) 今回から、学会自体の評価を行い、以後の学会がより一層充実したものになるよう改善して参ります。
- 8) 今回も演題申し込みにUMIN（大学病院医療情報ネットワーク）のオンライン演題申し込みシステムを導入致しました。また、今回、始めてUMINのオンライン査読システムも採用しました。

交通のご案内

〈岡山への交通〉

・航空機での所要時間

東京より……1時間10分
札幌より……2時間10分
仙台より……1時間30分
宮崎より……1時間20分
鹿児島より……1時間25分
沖縄より……2時間05分

※岡山コンベンションセンター・ホテルグランヴィア岡山へは岡山空港より車で約30分

・新幹線での所要時間

東京より……3時間15分
名古屋より……1時間37分
新大阪より……43分
広島より……39分
博多より……2時間48分

※岡山コンベンションセンターへはJR岡山駅西口より徒歩3分
ホテルグランヴィア岡山へはJR岡山駅2F出口より連絡通路で直結

〈岡山市内のホテル配置図〉



- 1 ホテルグランヴィア岡山(会場ホテル)
- 2 岡山ロイヤルホテル
- 3 ホテルニューオカヤマ
- 4 岡山プラザホテル
- 5 三井ガーデンホテル
- 6 アークホテル岡山
- 7 カルチャーホテル
- 8 後楽ホテル
- 9 岡山ビューホテル
- 10 岡山ワシントンホテルプラザ
- 11 岡山シティホテル
- 12 ホテルサンルート岡山
- 13 エクセルホテル
- 14 第一イン岡山
- 15 チサンホテル岡山
- 16 岡山キャッスルホテル
- 17 ホテルレポーゼ
- 18 駅前ユニバーサルホテル
- 19 岡山ユニバーサルホテル
- 20 ユニバーサルホテル別館
- 21 シティホテル池田
- 22 岡山グリーンホテル
- 23 セントラルホテル
- 24 ビジネスホテル幸荘
- 25 岡山ビジネスホテル
- 26 岡山ビジネスホテルアネックス
- 27 ホテルウェル
- 28 ビジネスホテル新子
- 会1 ホテルグランヴィア岡山
- 会2 岡山コンベンションセンター

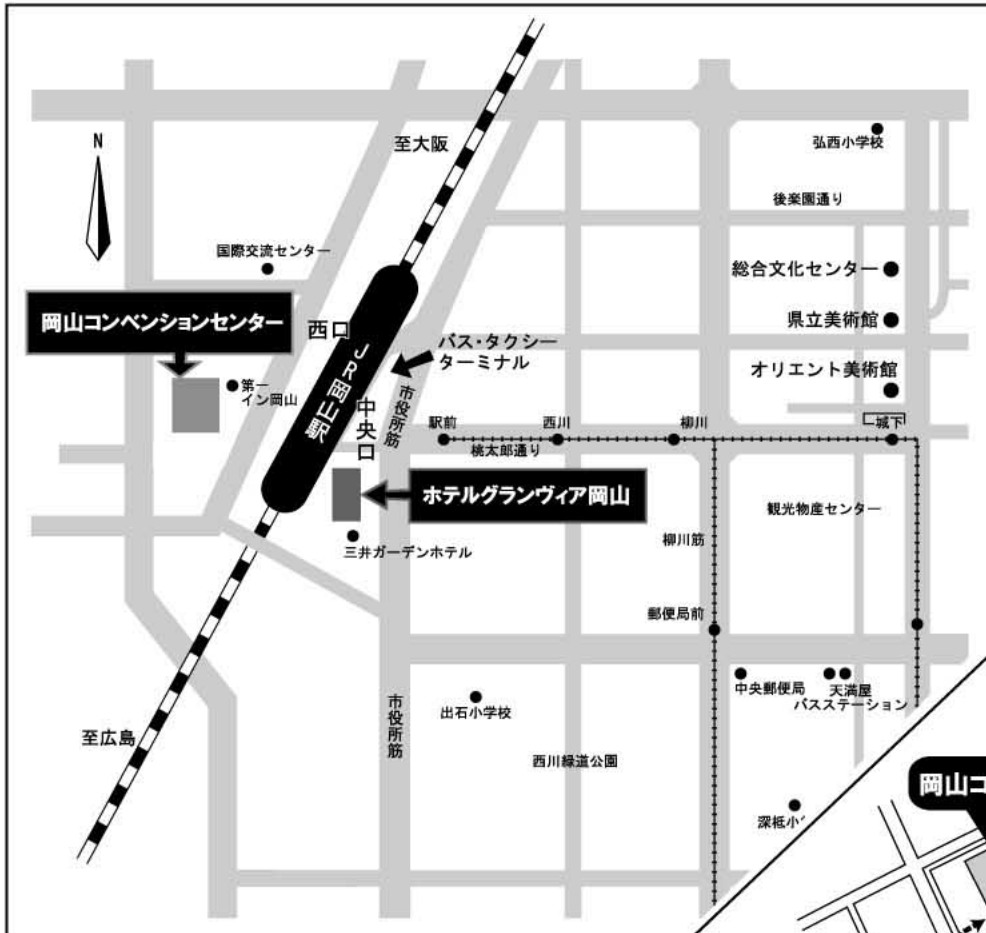
第48回定時総会開催

2004年4月15日(木)PM13:15~14:00

評議員会

2004年4月14日(水)PM17:00~18:30

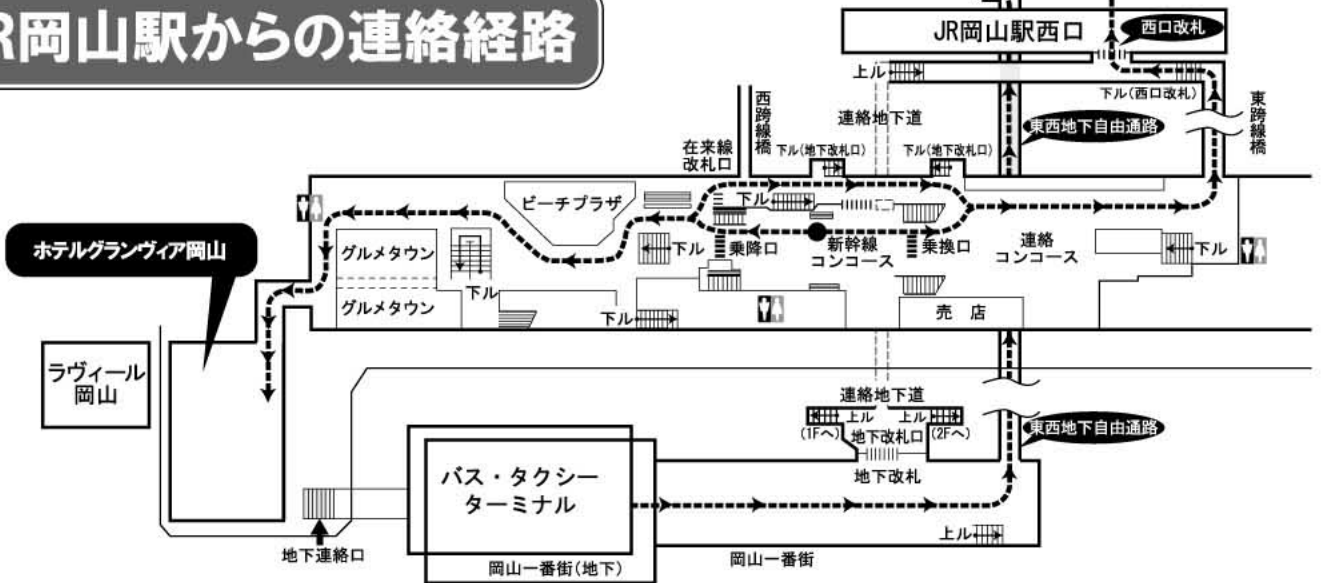
於:岡山コンベンションセンター



会場周辺図



JR岡山駅からの連絡経路



第48回日本リウマチ学会総会・学術集会の御案内

プログラムの概要 (今後一部変更されることがあります)

1. 特別講演 4月15日(木) 11:00~11:40
池原 進 教授
(関西医科大学病理学一講座, 関西医科大学移植センター, 関西医科大学再生医学難病治療センター, 関西医科大学癌治療センター) 「難病の革新的治療法の開発」
2. 会長講演 4月15日(木)
井上 一 (岡山大学大学院医歯学総合研究科) : 「関節の機能と共に38年」 (仮題)
3. 特別企画シンポジウム 4月16日(金)
「エビデンスに基づく治療ガイドラインについて」
4. 国際リウマチシンポジウム (演者指定, 公募なし)
Session 1: Synovial Pathology in Joint Destruction
Session 2: Pros and Cons in Anti-cytokine Therapy for RA
Session 3: New Frontier Drug Therapy for OA
Session 4: Up-to-date Indication in Rheuma-surgery
Session 5: Regulation of Osteoporosis in Rheumatic Diseases
5. シンポジウム (演者指定, 公募なし)
 1. 抗サイトカイン療法の展望
 2. リウマチ上肢の機能評価
 3. リウマチ性疾患と再生医療
 4. 血管炎症候群の病因, 病理, 診断と治療
 5. リウマチ下肢手術の合併症とその対策・治療 (血栓症, 人工関節周囲骨折, 感染など)
 6. 抗リウマチ薬の進歩: 有用性と限界
 7. 早期関節リウマチの診断と治療
 8. RA患者の多関節手術と問題点
 9. 骨・軟骨破壊に対する治療方針
 10. 難治性若年性特発性関節炎 (juvenile idiopathic arthritis: JIA) の新しい治療抗サイトカイン療法から造血幹細胞移植まで
 11. 各科領域から見た線維筋痛症の疾患概念と病態
 12. リウマチ治療をとりまく最近の医療経済的問題
 13. 膠原病の治療の進歩 (グロブリン大量療法, エンドキサンパルス療法, 血漿交換療法, 免疫制御薬など)
 14. 難治性の膠原病における医療の取り組み
6. 教育講演
 1. ループス腎炎の改定分類
榎野博史 (岡山大学大学院医歯学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学)
 2. 関節リウマチに罹患した上肢に対する手術治療
三浪明男 (北海道大学医学部 整形外科教室)
 3. 骨系統疾患の遺伝子診断と臨床的意義
田中弘之 (岡山大学大学院医歯学総合研究科 小児医科学)
 4. リウマチによる頰椎障害の診断・治療
戸山芳昭 (慶應義塾大学医学部 整形外科学教室)
 5. 生物学的製剤による治療
竹内 勤 (埼玉医科大学総合医療センター 第二内科)
 6. 続発性 (ステロイド性) 骨粗鬆症の治療
中村利孝 (産業医科大学 整形外科学教室)
 7. 膠原病の皮膚病変とその治療
水谷 仁 (三重大学医学部 皮膚科)
 8. 関節リウマチ (Rheumatoid Arthritis, RA) のQuality of Life (QOL)評価
佐藤 元 (東京大学大学院 公衆衛生学)
 9. ステロイド作用の分子機構
名和田 新 (九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学 (第三内科))
 10. 自然免疫とToll-like receptor
三宅健介 (東京大学医科学研究所 感染遺伝学分野)



▲岡山コンベンションセンター



▲コンベンションセンター ホール

7. ワークショップ (ポスターおよび一部口演: 公募, 一部指定)

- | | | |
|-------------------------|-----------------------|---------------------------|
| 1. リウマチ性疾患とCD8T 細胞 | 26. 変形性関節症の臨床 | 51. 新しいDMARDs・生物製剤 |
| 2. リウマチ性疾患と細胞表面分子 | 27. 血清反応陰性骨関節疾患 | 52. RA のステロイド療法 |
| 3. リウマチ性疾患とサイトカイン・ケモカイン | 28. 骨粗鬆症 | 53. NSAIDs |
| 4. リウマチ性疾患とアポトーシス | 29. 小児慢性関節炎 | 54. Cox-2阻害薬 |
| 5. リウマチ性疾患と遺伝子転写・シグナル伝達 | 30. SLE の病因・病態 | 55. ヒアルロン酸 |
| 6. リウマチ性疾患の遺伝子解析 | 31. SLE の臨床 | 56. 関節内注入療法 |
| 7. 自己抗原・自己抗体 | 32. ループス腎炎 | 57. RA の外科療法 |
| 8. リウマチ性疾患とウイルス | 33. 抗リン脂質抗体症候群 | 58. リウマチ患者に対する外科的治療のタイミング |
| 9. リウマチ性疾患の動物モデル | 34. MCTD とOverlap 症候群 | 59. リウマチ患者の手の再建 |
| 10. 免疫系と軟骨代謝 | 35. PSS の病因・病態 | 60. リウマチ患者の肘・肩の再建 |
| 11. 軟骨の変性と再生の機序 | 36. PSS の臨床 | 61. リウマチ患者の人工膝関節 |
| 12. 変形性関節症に伴う軟骨変性 | 37. PM/DM (「の肺病変」を省く) | 62. リウマチ患者の人工股関節 |
| 13. 滑膜増殖と制御 | 38. 血管炎症候群 | 63. リウマチ患者の足の治療 |
| 14. 免疫系と骨代謝 | 39. ANCA 関連血管炎 | 64. リウマチ患者の頸椎再建 |
| 15. 骨代謝 | 40. シェーグレン症候群の病因・病態 | 65. 自己血輸血 |
| 16. リウマチの関節破壊機序 | 41. シェーグレン症候群の臨床 | 66. リウマチ外科手術の合併症対策 |
| 17. リウマチ性疾患の疫学 | 42. 血球貧血症候群 | 67. 難治性リウマチの治療 |
| 18. リウマチ性疾患の遺伝子治療 | 43. 二次性アミロイドーシス | 68. リウマチ性疾患のリハビリテーション |
| 19. リウマチ性疾患における加齢と病態 | 44. リウマチ性疾患の肺病変 | 69. ストレスとリウマチ性疾患 |
| 20. RAの早期診断 | 45. リウマチ性疾患と肺高血圧症 | 70. リウマチ性疾患とQOL |
| 21. リウマトイド因子、その他の診断マーカー | 46. リウマチ性疾患と腎病変 | 71. リウマチ性疾患の医療体制、病診連携 |
| 22. RAの上肢病変 | 47. リウマチ性疾患の消化器病変 | 72. リウマチ学の教育体制 |
| 23. RAの下肢病変 | 48. リウマチ性疾患の画像診断 | 73. その他 |
| 24. RAの脊椎病変 | 49. RA のDMARDs 療法 | 74. リウマチ性疾患と感染症 |
| 25. 変形性関節症の病因・病態 | 50. MTX | 75. 線維性筋痛症 |
8. 症例報告 (ポスター)
1. RA 2. SLE 3. PSS 4. PM/DM 5. その他の疾患
9. パネルディスカッション (応募演題より5セッション選定)
10. ケースチャレンジ (演者指定, 公募なし)
1. 若年性リウマチの難治例 2. 合併症を伴ったリウマチ例 3. リウマチ上肢の手術例
4. リウマチ下肢の手術例 5. 難治性リウマチ例
11. ランチョンセミナー
12. 医療器械展示
13. ワインセッション
14. 市民公開講座 学会最終日4月17日 (土) 午後予定「リウマチへの新しい取り組み」(仮称)

この学術集会出席に伴う専門医制度による単位取得学会は次の予定です。

1. 日本リウマチ学会 (専門医) = 学術集会出席7単位, 発表 (筆頭) 5単位, 国際リウマチシンポジウム出席5単位
2. 日本整形外科学会 (専門医) = 指定講演毎に1単位 (最大6単位)
3. 日本内科学会 (認定内科医・認定内科専門医) = 学術集会出席3単位
4. 日本アレルギー学会 (認定医・専門医・指導医) = 学術集会出席3単位, 発表 (筆頭) 2単位
5. 日本リウマチ財団 (登録医) = 指定講演毎に1~2単位 (1日最大6単位)
6. 日本皮膚科学会 (認定皮膚科専門医) = 学術集会出席6単位
7. 日本小児科学会 (認定医) = 学術集会出席5単位

連絡先: 〒700-8558 岡山市鹿田町2-5-1
岡山大学大学院医歯学総合研究科 (整形外科)
TEL: 086-235-7273 FAX: 086-223-9727
E-mail: jcr48@md.okayama-u.ac.jp
URL: <http://www.congre.co.jp/jcr2004/>
事務局長: 橋詰博行
学会担当: 阿部信寛, 西田圭一郎, 木村静香

会 期: 2004年4月15日 (木) ~17日 (土)
会 場: 岡山コンベンションセンター (〒700-0024
岡山市駅元町14-1 TEL: 086-214-1000)
ホテルグランヴィア岡山 (〒700-8515
岡山市駅元町1-5 TEL: 086-234-7000)



▲ホテルグランヴィア岡山



▲ホテルグランヴィア岡山ロビー



横浜市立大学大学院医学研究科
病態免疫制御内科学(第一内科)

石ヶ坪良明

アメリカリウマチ学会に 参加して



第67回アメリカリウマチ学会 (American College of Rheumatology) および第38回アメリカリウマチ理学療法学会 (Association of Rheumatology Health Professionals) の合同学術集会在2003年10月23~28日の日程でフロリダ州Orlandoのコンベンションセンターにて開催されました。

本年度は1849演題が採択されましたが、プログラム巻末のキーワードをもとに抽出・分類した表を参照いただければ演題内容の傾向程度は伺えるかもしれません。

今回は、特にbreakthroughとして紹介するような報告はなかったように思いますが、欧米ではすでに多様な生物学的製剤 (Infliximab, Etanercept, Adalimumab, Anakinra) の使用経験が豊富なことから、ここ数年注目を集めているトピックスの一つとして、治験中のMRA (抗IL-6R抗体) を含めRCT (Randomized Control Trial) および通年の各種生物学的製剤の結果報告、臨床報告が挙げられます。

MRI, エコーに関しての演題数も昨年と比較して増加し (それぞれ21が33, 16が22), リウマチ医の画像診断への興味の高揚を如実に示しているように思います。確かに、近年の画像診断の進歩には目を見張るものがあり、これらの画像診断法は、診断、経過観察を含め今後のRA診療にさらに有用な手段となるように思います。

さて、ACRの開催は、概して10月の最終土日と重なり、学会開催中に夏時間から冬時間へ変更されるため、私もそうですが、中には失敗談をお持ちの先生もいらっしゃるかもしれません。来年度は、10月16-21日 (第3週) の開催のため会期中の時間の変更はなく、制度に不慣れな日本人にも影響はないようです。

随筆タッチでとの依頼でしたので、学会関連の催しなどについても個人的偏見を交えて少し紹介したいと思います。以前、「リウマチ」の編集後記に学会中に開催される5KのRUN/WALKについて書かせていただきましたが、本年度はDisney Worldの中のCross Country trackコースで行われました。来年度のACRはテキサス州San Antonioで開催されますが、学会中の気分のリフレッシュを兼ねて一度参加されてはいかがでしょうか。ちなみに、下記にて本年度のレースの順位、タイム、ゴール付近の参加者の写真が参照できます (<http://www.rheumatology.org/ref/httpwww.rheumatology.orgref5Kresults.asp>)。

さて、例年、学会のレセプションを楽しみにされている先生もいらっしゃると思いますが、昨年度のNew Orleansでのレセプションは雨にたたられましたが、本年度のケーキレセプションは辛党の方にはいささか辛かったかもしれません。

ACRプログラムの項目別演題数

演 題 項 目	演題数	演 題 項 目	演題数
特異的疾患	1210	治療	253
ankylosing spondylitis	34	Adalimumab	15
cardiovascular disease	35	Etanercept	28
fibromyalgia	47	Infliximab	46
osteoarthritis	91	methotrexate	24
osteoarthritis knee	58	glucocorticoids	26
osteoporosis	45	therapy	32
psoriatic arthritis	28	treatment	35
rheumatoid arthritis	291	clinical trials	47
rheumatoid arthritis animal models	48	基礎	869
rheumatoid arthritis pathogenesis	38	adhesion molecules	24
rheumatoid arthritis synovium	25	antibodies	20
rheumatoid arthritis treatment	85	autoantibodies	52
scleroderma	42	B cells	30
Sjogren's syndrome	34	chemokines	25
systemic lupus erythematosus	241	cytokines	62
systemic sclerosis	36	dendritic cells	30
vasculitis	32	Fc receptors	24
医療経済	70	fibroblasts	30
economics	18	interleukin-10	16
outcome measures	37	macrophages	25
cost	15	matrix metalloproteinase	24
疫学・社会医学	114	synovial cells	44
epidemiology	63	T cells	71
Health Assessment Questionnaire	18	TNF inhibitors	42
quality of life	33	tumor necrosis factor	47
画像診断	81	antiphospholipid antibodies	55
magnetic resonance imaging	33	apoptosis	47
radiography	26	autoimmunity	23
ultrasound	22	genetic factors	40
		genetic research	30
		inflammation	50
		animal models	58

*各項目15以上の演題のみを抜粋し、太字は独自に分類した。また、キーワード分類のため本表の演題数の合計は実際の1849演題よりは多い。(太字数字は各分類の総数)

各支部だより

第14回 関東支部学術集会

●2003年12月6日(土) 於：ラフレ埼玉

さいたま新都心に約300名が集結、
リウマチ学会関東支部学術集会：活況下に終了

第14回日本リウマチ学会関東支部学術集会(竹内勤会長、山本一彦支部長)が2003年12月6日(土)、さいたま新都心のラフレ埼玉において、第一線の臨床現場で問題となっている話題を中心に、診療、研究の進歩・普及を図ることを目的に開催された。

事務局長の埼玉医大総合医療センター第二内科の津坂憲政講師をはじめとした医局のスタッフと協賛いただいた43社の製薬会社の力で、約300名の学会員が参加し、活況の下に無事終了した。

特別講演には「抗リン脂質抗体症候群研究の新展開」と題して北海道大学の小池隆夫教授が、そして「関節リウマチ薬物療法の最前線」と題して東京医科歯科大学の宮坂信之教授がそれぞれ講演された。

主題として「膠原病の難治性病態の管理」「RA薬物療法の進歩と問題点」「RA外科的治療の進歩と問題点」が取り扱われ、活発な質疑応答が行われた。

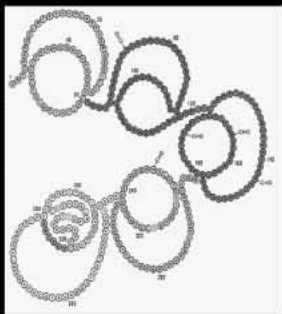
またランチョンセミナーとして、名古屋大学の石黒直樹教授による「リウマチにおける外科的治療—現状と展望—」と、埼玉医科大学の金沢実教授による「リウマチ医がしばしば遭遇する慢性呼吸器感染症の診断と治療」の2つの講演があり、出席した会員に好評であった。

β2-グリコプロテインI (β2GPI)

β2-GPI

- 抗リン脂質抗体の主要抗原
- リン脂質結合タンパク
- リン脂質結合部位は第5ドメイン "282KNKEK287K"

- プラスミンにより^{317K-318T}で限定分解
↓
リン脂質結合能を失う
↓
β2GPIの機能を失う



小池教授の特別講演では、先生のライフワークである抗リン脂質抗体に関する一連の研究結果が紹介され、対応抗原であるβ2グリコプロテイン1の構造と機能について詳しく述べられた。最後に、同抗体が血栓形成を引き起こす機序の解明に向けた新たな仮説として、血管内皮細胞上のβ2グリコプロテイン1分子に結合すると、MyD88などを介したシグナル伝達を経てProcoagulant stateをつくり出す可能性が紹介された。

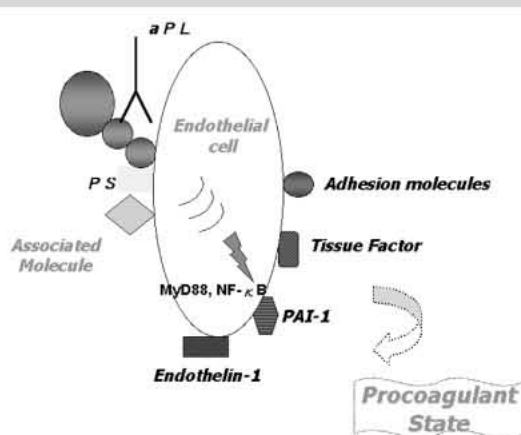
主なTNF阻害薬

		構造
● 抗体製剤	ヒト/マウスキメラ型抗TNFα モノクローナル抗体	インフリキシマブ
	ヒト抗TNFα モノクローナル抗体	アダリムマブ
● レセプター製剤	ヒト型可溶性TNFレセプター 融合蛋白	エタネルセプト

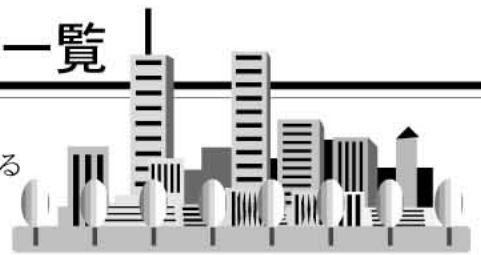
RAに対する生物製剤使用ガイドライン
(厚生労働省研究班：2003)

適応	活動性：MTX 6mg/週を3ヵ月以上継続して投与してもコントロール不良のRA (以下3項目)
	1. 疼痛関節6個以上
	2. 腫脹関節6個以上
	3. CRP 2.0mg/dl あるいはESR 20mm/hr以上
安全性	日和見感染症の危険性が低い
	1. 末梢血白血球 数 4000/mm ³
	2. 末梢血リンパ球 数 1000/mm ³
	3. 血中B-D-グルカン陽性
禁忌	1. 感染症を有している
	2. 過去6ヶ月以内に重篤な感染症の既往を有する
	3. 胸部X線写真で陈旧性肺結核に合致する陰影(雲霧影、5mm以上の石灰化影)を有する
	4. 肺結核の既感染者。ただし、本剤による利益が安全性を上回ると判断された場合には、抗結核薬の投与を行った上で本剤の開始を考慮する
	5. 肺外結核症、カリニ肺炎の既往を有する
	6. 心房性心不全を有する
	7. 悪性腫瘍、脱髄疾患を有する

宮坂教授の特別講演では、関節リウマチの新規治療薬が次々に紹介され、特に抗サイトカイン薬の効果と問題点について述べられた。その中でTNF阻害薬ではインフリキシマブ(レミケード)が7月に承認され、エタネルセプトが申請中で2004年にも承認される予定であり、アダリムマブも治験中であることが示された。レミケードの使用に際しては厚労省の使用ガイドラインを示され、それを遵守し結核等の感染症や種々の有害事象に十分注意するよう強調された。



(中)日本リウマチ学会認定の『教育施設』一覧



(中)日本リウマチ学会専門医制度規則第14条により教育施設として認定されている施設は次の334施設（2003年9月1日現在）です。

*印は第15次（2003年度）新規認定された14施設。

なお、教育施設の募集および継続申請のお知らせは次号ニュースレターで掲載いたします。

(中)日本リウマチ学会『教育施設』一覧

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
1	1	1989	2004	北海道大学医学部附属病院	北海道
2	81	1990	2005	総合病院北見赤十字病院	〃
3	82	1990	2005	札幌医科大学医学部附属病院	〃
4	84	1990	2005	勤医協中央病院	〃
5	88	1990	2005	市立札幌病院	〃
6	216	1995	2004	札幌山の大病院リウマチ膠原病センター	〃
7	217	1995	2004	札幌社会保険総合病院	〃
8	246	1998	2004	市立釧路総合病院	〃
9	335	2001	2004	旭川医科大学附属病院	〃
10	336	2001	2004	八雲総合病院	〃
11	354	2002	2005	苫小牧市立総合病院	〃
12	115	1991	2006	青森県立中央病院	青森県
13	116	1991	2006	弘前大学医学部附属病院	〃
14	306	2000	2006	医療法人整友会弘前記念病院	〃
15	2	1989	2004	岩手医科大学医学部附属病院	岩手県
16	118	1991	2006	由利組合総合病院	〃
17	204	1994	2006	国立療養所盛岡病院	〃
18	183	1993	2005	秋田大学医学部附属病院	秋田県
19	219	1995	2004	特定医療法人明和会中通総合病院	〃
20	273	1999	2005	湖東総合病院	〃
21	4	1989	2004	東北厚生年金病院	宮城県
22	5	1989	2004	労働福祉事業団東北労災病院	〃
23	119	1991	2006	東北大学医学部附属病院	〃
24	272	1999	2005	国立療養所西多賀病院	〃
25	307	2000	2006	古川市立病院	〃
26	120	1991	2006	山形大学医学部附属病院	山形県
27	308	2000	2006	社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院	〃
28	6	1989	2004	福島県立医科大学附属病院	福島県
29	122	1991	2006	財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	〃
30	153	1992	2004	労働福祉事業団福島労災病院	〃
31	184	1993	2005	財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院	〃
32	229	1996	2005	社団法人竹田総合病院	〃
33	274	1999	2005	福島第一病院	〃
34	275	1999	2005	福島県厚生連塙厚生病院	〃
35	309	2000	2006	財団法人大原総合病院	〃
36	337	2001	2004	福島赤十字病院	〃
37	7	1989	2004	医療法人慈誠会上板橋病院	東京都
38	8	1989	2004	慶應義塾大学病院	〃
39	9	1989	2004	国立病院東京医療センター	〃
40	10	1989	2004	国立療養所村山病院	〃
41	11	1989	2004	昭和大学病院	〃
42	12	1989	2004	順天堂大学医学部附属順天堂病院	〃
43	13	1989	2004	帝京大学医学部附属病院	〃
44	14	1989	2004	東京医科歯科大学医学部附属病院	〃
45	15	1989	2004	東京医科大学病院	〃
46	16	1989	2004	東京女子医科大学附属第二病院	〃
47	17	1989	2004	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	〃
48	18	1989	2004	東京大学医学部附属病院	〃
49	19	1989	2004	東京通信病院	〃
50	20	1989	2004	東京都立府中病院	〃
51	21	1989	2004	東京都老人医療センター	〃
52	22	1989	2004	杏林大学医学部附属病院	〃
53	23	1989	2004	東京都立大塚病院	〃
54	25	1989	2004	日本大学医学部附属板橋病院	〃

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
55	89	1990	2005	国立成育医療センター	東京都
56	92	1990	2005	東京都立墨東病院	〃
57	111	1990	2005	東京慈恵会医科大学附属病院	〃
58	123	1991	2006	国家公務員等共済組合連合会虎の門病院	〃
59	124	1991	2006	財団法人佐々木研究所附属杏雲堂病院	〃
60	125	1991	2006	東京都立駒込病院	〃
61	126	1991	2006	J R 東京総合病院	〃
62	156	1992	2004	日本大学附属練馬光が丘病院	〃
63	187	1993	2005	河北総合病院	〃
64	245	1997	2006	日本医科大学附属病院	〃
65	250	1992	2004	自衛隊中央病院	〃
66	276	1999	2005	東邦大学医学部付属大森病院	〃
67	277	1999	2005	東京厚生年金病院	〃
68	314	2000	2006	公立阿伎留病院	〃
69	341	2001	2004	社会福祉法人東京白十字病院	〃
70	355	2002	2005	東邦大学大橋病院	〃
71	386	2003	2006	* 国立国際医療センター	〃
72	387	2003	2006	* 日本赤十字社医療センター病院	〃
73	27	1989	2004	自治医科大学附属病院	栃木県
74	28	1989	2004	獨協医科大学病院	〃
75	29	1989	2004	千葉大学医学部附属病院	千葉県
76	75	1990	2005	千葉リハビリテーションセンター	〃
77	249	1998	2004	国立療養所下志津病院	〃
78	297	1997	2006	東邦大学附属佐倉病院	〃
79	313	2000	2006	国保松戸市立病院	〃
80	385	2003	2006	* 千葉県済生会習志野病院	〃
81	30	1989	2004	埼玉医科大学総合医療センター	埼玉県
82	31	1989	2004	埼玉医科大学附属病院	〃
83	32	1989	2004	防衛医科大学校病院	〃
84	85	1990	2005	さいたま赤十字病院	〃
85	154	1992	2004	医療法人一成会 さいたま記念病院	〃
86	186	1993	2005	さいたま市立病院	〃
87	205	1994	2006	春日部秀和病院	〃
88	311	2000	2006	川口工業総合病院	〃
89	339	2001	2004	埼玉社会保険病院	〃
90	340	2001	2004	深谷赤十字病院	〃
91	358	2002	2005	特定医療法人社団新都市医療研究会〔関越〕会関越病院	〃
92	359	2002	2005	医療法人藤和会藤間病院	〃
93	130	1991	2006	筑波大学附属病院	茨城県
94	231	1996	2005	日立製作所多賀総合病院	〃
95	310	2000	2006	東京医科大学霞ヶ浦病院	〃
96	338	2001	2004	財団法人筑波薺仁会総合病院筑波学園病院	〃
97	356	2002	2005	社会福祉法人白十字会白十字総合病院	〃
98	87	1990	2005	医療法人社団三恩会東邦病院	群馬県
99	90	1990	2005	前橋赤十字病院	〃
100	129	1991	2006	医療法人井上病院	〃
101	185	1993	2005	群馬大学医学部附属病院	〃
102	232	1996	2005	財団法人老年病研究所附属病院	〃
103	247	1998	2004	日高病院	〃
104	357	2002	2005	医療法人社団東郷会恵愛堂病院	〃
105	384	2003	2006	* 医療法人相生会わかば病院	〃
106	33	1989	2004	神奈川県立厚木病院	神奈川県
107	34	1989	2004	川崎市立川崎病院	〃
108	35	1989	2004	北里大学病院	〃

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
109	36	1989	2004	北里大学東病院	神奈川県
110	37	1989	2004	国立相模原病院	"
111	39	1989	2004	聖マリアンナ医科大学病院	"
112	40	1989	2004	聖マリアンナ医科大学東横病院	"
113	41	1989	2004	東海大学医学部附属病院	"
114	42	1989	2004	横浜市立大学医学部附属病院	"
115	94	1990	2005	昭和大学藤が丘病院	"
116	95	1990	2005	湯河原厚生年金病院	"
117	157	1992	2004	藤沢市民病院	"
118	158	1992	2004	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター	"
119	159	1992	2004	帝京大学医学部附属溝口病院	"
120	189	1993	2005	湘南鎌倉総合病院	"
121	221	1995	2004	川崎市立井田病院	"
122	251	1991	2004	神奈川県厚生農業協同組合連合会総合病院伊勢原協同病院	"
123	252	1998	2004	横浜市立市民病院	"
124	298	1997	2006	海老名総合病院人工関節リウマチセンター	"
125	278	1999	2005	労働福祉事業団横浜労災病院	"
126	315	2000	2006	特定医療法人(社団)新都市医療研究会君津会南大和病院	"
127	316	2000	2006	国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院	"
128	342	2001	2004	横浜船員保険病院	"
129	360	2002	2005	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院	"
130	361	2002	2005	医療法人社団康心会湘南東部総合病院	"
131	362	2002	2005	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院	"
132	363	2002	2005	社会福祉法人聖母訪問会総合病院聖ヨゼフ病院	"
133	364	2002	2005	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	"
134	388	2003	2006	* 済生会神奈川県病院	"
135	389	2003	2006	* 三浦市立病院	"
136	43	1989	2004	山梨大学医学部附属病院	山梨県
137	44	1989	2004	市立伊東市民病院	静岡県
138	45	1989	2004	中伊豆温泉病院	"
139	96	1990	2005	順天堂大学医学部附属順天堂伊豆長岡病院	"
140	134	1991	2006	浜松医科大学医学部附属病院	"
141	190	1993	2005	磐田市立総合病院	"
142	192	1993	2005	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷浜松病院	"
143	222	1995	2004	総合病院静岡厚生病院	"
144	279	1999	2005	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷三方原病院	"
145	320	2000	2006	藤枝市立総合病院	"
146	366	2002	2005	静岡赤十字病院	"
147	367	2002	2005	静岡リウマチ整形外科リハビリ病院	"
148	393	2003	2006	* 医療法人社団駿甲会コミュニティーホスピタル甲斐病院	"
149	97	1990	2005	長野県厚生農業協同組合連合会篠ノ井病院	長野県
150	160	1992	2004	長野県厚生農業協同組合連合会松代総合病院	"
151	161	1992	2004	小諸厚生総合病院	"
152	299	1997	2006	長野赤十字病院	"
153	318	2000	2006	飯田市立病院	"
154	343	2001	2004	信州大学医学部附属病院	"
155	112	1990	2005	新潟県立瀬波病院	新潟県
156	113	1990	2005	新潟大学医学部附属病院	"
157	133	1991	2006	新潟県立中央病院	"
158	365	2002	2005	長岡赤十字病院	"
159	166	1992	2004	富山赤十字病院	富山県
160	194	1993	2005	富山医科薬科大学附属病院	"
161	390	2003	2006	* 富山県済生会高岡病院	"
162	80	1990	2005	社団法人石川労働者医療協会金沢リハビリテーション病院リウマチ膠原病センター	石川県
163	86	1990	2005	金沢医科大学病院	"
164	301	1997	2006	金沢大学医学部附属病院	"
165	319	2000	2006	石川県済生会金沢病院	"
166	46	1989	2004	愛知医科大学附属病院	愛知県
167	47	1989	2004	国立名古屋病院	"
168	48	1989	2004	名古屋市立大学病院	"
169	49	1989	2004	藤田保健衛生大学病院	"

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
170	103	1990	2005	J A 愛知厚生連安城更生病院	愛知県
171	107	1990	2005	小牧市民病院	"
172	162	1992	2004	トヨタ自動車株式会社トヨタ記念病院	"
173	163	1992	2004	名古屋大学医学部附属病院	"
174	209	1994	2006	労働福祉事業団中部労災病院	"
175	210	1994	2006	名古屋市立東市民病院	"
176	234	1996	2005	みなと医療生活協同組合協立総合病院	"
177	235	1996	2005	名古屋市立城北病院	"
178	253	1998	2004	豊橋市民病院	"
179	254	1998	2004	医療法人宝美会総合青山病院	"
180	280	1999	2005	成田記念病院	"
181	281	1999	2005	豊川市民病院	"
182	282	1999	2005	公立陶生病院	"
183	283	1999	2005	一宮市立市民病院	"
184	344	2001	2004	名古屋共立病院	"
185	368	2002	2005	医療法人大雄会総合大雄会病院	"
186	369	2002	2005	名古屋市総合リハビリテーションセンター	"
187	83	1990	2005	鈴鹿中央総合病院	三重県
188	135	1991	2006	山田赤十字病院	"
189	52	1989	2004	福井大学医学部附属病院	福井県
190	110	1990	2005	福井総合病院	"
191	50	1989	2004	朝日大学医学部附属村上記念病院	岐阜県
192	165	1992	2004	多治見市民病院	"
193	193	1993	2005	岐阜大学医学部附属病院	"
194	391	2003	2006	* 岐阜県立多治見病院	"
195	392	2003	2006	* 医療法人社団登豊会近石病院	"
196	53	1989	2004	京都大学医学部附属病院	京都府
197	54	1989	2004	京都府立医科大学附属病院	"
198	104	1990	2005	京都第二赤十字病院	"
199	223	1995	2004	公立南丹病院	"
200	346	2001	2004	三菱京都病院	"
201	56	1996	2005	大阪労災病院	大阪府
202	57	1989	2004	関西医科大学附属病院	"
203	58	1989	2004	近畿大学医学部附属病院	"
204	59	1989	2004	国立大阪南病院	"
205	102	1990	2005	医療法人行岡医学研究会行岡病院	"
206	105	1990	2005	大阪大学医学部附属病院	"
207	137	1991	2006	関西電力病院	"
208	138	1991	2006	N T T 西日本大阪病院	"
209	139	1991	2006	大阪市立大学医学部附属病院	"
210	140	1991	2006	大阪医科大学附属病院	"
211	167	1992	2004	淀川キリスト教病院	"
212	211	2002	2005	星ヶ丘厚生年金病院	"
213	236	1996	2005	医療法人早石会早石病院	"
214	237	1996	2005	大阪赤十字病院	"
215	255	1998	2004	国立大阪病院	"
216	256	1998	2004	大阪府立病院	"
217	257	1998	2004	ベルランド総合病院	"
218	258	1998	2004	高槻赤十字病院	"
219	284	1999	2005	大阪府済生会中津病院	"
220	285	1999	2005	財団法人田附興風会北野病院	"
221	286	1999	2005	医療法人相愛会相原第二病院	"
222	288	1999	2005	近畿大学医学部堺病院	"
223	289	1999	2005	日野病院	"
224	323	2000	2006	医療法人祐生会みどりヶ丘病院	"
225	325	2000	2006	大阪厚生年金病院	"
226	326	2000	2006	市立枚方市民病院	"
227	370	2002	2005	特定医療法人きつこう会多根総合病院	"
228	394	2003	2006	* 大阪府済生会富田林病院	"
229	395	2003	2006	* 堺温心会病院	"
230	396	2003	2006	* 財団法人日本生命済生会付属日生病院	"
231	60	1989	2004	滋賀医科大学医学部附属病院	滋賀県

(中)日本リウマチ学会認定の『教育施設』一覧

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
232	345	2001	2004	社会保険滋賀病院	滋賀県
233	61	1989	2004	神戸大学医学部附属病院	兵庫県
234	62	1989	2004	財団法人甲南病院加古川病院	〃
235	63	1989	2004	兵庫医科大学病院	〃
236	238	1996	2005	姫路赤十字病院	〃
237	259	1998	2004	関西労災病院	〃
238	260	1998	2004	三木市民病院	〃
239	261	1998	2004	神戸掖済会病院	〃
240	302	1997	2006	医療法人聖医会佐用中央病院	〃
241	327	2000	2006	神戸赤十字病院	〃
242	328	2000	2006	財団法人甲南病院六甲アイランド病院	〃
243	329	2000	2006	神戸市立西市民病院	〃
244	347	2001	2004	公立学校共済組合近畿中央病院	〃
245	372	2002	2005	医療法人社団新日鐵広畑病院	〃
246	373	2002	2005	兵庫県立淡路病院	〃
247	374	2002	2005	姫路愛和病院	〃
248	375	2002	2005	松原メイフラワー病院	〃
249	142	1991	2006	奈良県立医科大学附属病院	奈良県
250	330	2000	2006	近畿大学医学部奈良病院	〃
251	371	2002	2005	医療法人ひのうえ会樋上病院	〃
252	108	1990	2005	和歌山県立医科大学附属病院	和歌山県
253	64	1989	2004	倉敷廣済病院	岡山県
254	109	1990	2005	岡山大学医学部附属病院	〃
255	143	1991	2006	総合病院岡山市立市民病院	〃
256	171	1992	2004	財団法人倉敷成人病センター南くらしき病院	〃
257	172	1992	2004	川崎医科大学附属病院	〃
258	263	1998	2004	金光病院	〃
259	290	1999	2005	倉敷市立児島市民病院	〃
260	331	2000	2006	国立療養所南岡山病院	〃
261	376	2002	2005	岡山赤十字病院	〃
262	377	2002	2005	岡山労災病院	〃
263	397	2003	2006	*倉敷中央病院	〃
264	101	1990	2004	広島大学医学部附属病院	広島県
265	196	1993	2005	尾道市立市民病院	〃
266	212	1994	2006	東広島記念病院	〃
267	239	1996	2005	公立みつぎ総合病院	〃
268	264	1998	2004	広島市立広島市民病院	〃
269	348	2001	2004	県立広島病院	〃
270	349	2001	2004	公立学校共済組合中国中央病院	〃
271	350	2001	2004	J R 広島鉄道病院	〃
272	66	1989	2004	島根大学医学部附属病院	島根県
273	197	1993	2005	玉造厚生年金病院	〃
274	67	1989	2004	鳥取大学医学部附属病院	鳥取県
275	262	1998	2004	鳥取県中部医師会立三朝温泉病院	〃
276	378	2002	2005	鳥取赤十字病院	〃
277	226	1995	2004	山口大学医学部附属病院	山口県
278	265	1998	2004	宇部協立病院	〃
279	303	2001	2004	山口赤十字病院	〃
280	332	2000	2006	下関市立中央病院	〃
281	351	2001	2004	山口県立中央病院	〃
282	76	1990	2005	徳島健生病院	徳島県
283	379	2002	2005	徳島大学医学部附属病院	〃

一連番号	認定番号	認定年度	次回更新年度	施設名	都道府県名
284	173	1992	2004	香川大学医学部附属病院	香川県
285	241	1996	2005	香川労災病院	〃
286	291	1999	2005	医療法人財団博仁会キナシ大林病院	〃
287	68	1989	2004	愛媛大学医学部附属病院	愛媛県
288	69	1989	2004	道後温泉病院	〃
289	70	1989	2004	松山赤十字病院	〃
290	292	1999	2005	医療法人慈生会松山城東病院	〃
291	333	2000	2006	市立宇和島病院	〃
292	227	1995	2004	高知大学医学部附属病院	高知県
293	242	1996	2005	医療法人緑風会海里マリン病院	〃
294	380	2002	2005	国立高知病院	〃
295	71	2002	2005	久留米大学病院	福岡県
296	78	1990	2005	福岡大学病院	〃
297	144	1991	2006	九州大学医学部附属病院	〃
298	175	1992	2004	労働福祉事業団九州労災病院	〃
299	176	1992	2004	産業医科大学病院	〃
300	198	1993	2005	宗像医師会病院	〃
301	199	1993	2005	医療法人弘医会福岡鳥飼病院	〃
302	213	1994	2006	国立病院九州医療センター	〃
303	214	1994	2006	久留米大学医学部附属医療センター	〃
304	228	1995	2004	門司労災病院	〃
305	266	1998	2004	千代町林病院	〃
306	381	2002	2005	医療法人雪ノ聖母会聖マリア病院	〃
307	145	1991	2006	佐賀大学医学部附属病院	佐賀県
308	200	1993	2005	国立嬉野病院	〃
309	146	1991	2006	長崎大学医学部附属病院	長崎県
310	178	1992	2004	佐世保中央病院	〃
311	267	1998	2004	国立病院長崎医療センター	〃
312	294	1999	2005	日本赤十字社長崎原爆病院	〃
313	295	1999	2005	健康保険諫早総合病院	〃
314	334	2000	2006	医療法人後藤会後藤会病院	〃
315	352	2001	2004	対馬いづはら病院	〃
316	91	1990	2005	熊本整形外科病院	熊本県
317	147	1991	2006	熊本大学医学部附属病院	〃
318	179	1992	2004	熊本リハビリテーション病院	〃
319	180	1992	2004	国立熊本病院	〃
320	201	1993	2005	熊本市立熊本市市民病院	〃
321	202	1993	2005	医療法人社団寿量会熊本機能病院	〃
322	203	1993	2005	玉名市外四ヶ町病院組合公立玉名中央病院	〃
323	353	2001	2004	熊本赤十字病院	〃
324	72	1989	2004	大分大学医学部附属病院	大分県
325	73	1989	2004	九州大学病院別府先進医療センター	〃
326	148	1991	2006	国立別府病院	〃
327	181	1992	2004	大分赤十字病院	〃
328	74	1989	2004	宮崎大学医学部附属病院	宮崎県
329	268	1998	2004	宮崎県立宮崎病院	〃
330	269	1998	2004	医療法人善仁会市民の森病院	〃
331	270	1998	2004	国立都城病院	〃
332	182	1992	2004	鹿児島赤十字病院リウマチ膠原病センター	鹿児島県
333	215	1994	2006	鹿児島大学医学部附属病院	〃
334	382	2002	2005	医療法人友愛会豊見城中央病院	沖縄県



今夏8月、当会より皆様へ個別のメール・アドレスをご提供させていただきましたが、設定はお済でしょうか。なお、何らかの理由により、現在ご使用中のメール・アドレスに当学会からの連絡・情報提供をご希望の方は、お手数ですが、学会事務局までご一報下さい。今後は、そちらへ配信させていただきます。なお、ご不明の点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。

有限責任中間法人 日本リウマチ学会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F

Tel:03-5251-5353 Fax:03-5251-5354 email:gakkaim@ryumachi-jp.com



▲2003年発刊43巻和文誌「リウマチ」4誌

和文誌「リウマチ」 2003年 Vol. 43 / No.1

会長挨拶

リウマチ治療の新たな展開…狩野庄吾…………… 1

綜説

リウマチ性疾患と酸化ストレス…熊谷俊一, 小柴賢洋…………… 3

原著

膠原病に合併した間質性肺炎における血清マーカーKL-6およびSP-Dの臨床的検討

末松栄一, 宮村知也, 嶋田裕稔, 中尾隆介, 山本政弘…………… 11

膠原病患者の間質性肺疾患に対する血清KL-6およびSP-Dの有用性に関する検討

小川法良, 下山久美子, 川端 浩, 正木康史, 和野雅治, 菅井 進…………… 19

筋骨格系疾患の疾病負担に関する評価指標の開発

一関節リウマチと変形性関節症の比較から一

須賀万智, 清田礼乃, 吉田勝美…………… 29

臨床

肺癌との鑑別が問題となった孤立肺結節影を伴ったWegener肉芽腫症の1症例

桐野洋平, 辻 隆, 大野 滋, 上田敦久, 吉見竜介, 武田由希子,

三角 緑, 井上優子, 岳野光洋, 石ヶ坪良明…………… 39

コルヒチンとシクロスポリンの併用療法中にニューロミオパシーを呈したベーチェト病の1症例

藤井裕子, 有村義宏, 高橋直子, 土岐岳士, 丸茂朋史, 吉原 堅, 中林公正, 山田 明…………… 44

お知らせ

日本リウマチ学会誌の刊行について / 第47回総会・学術集会 (5) / 2003年度日本リウマチ学会教育施設募集および継続申請 / 日本リウマチ学会支部学術集会 (第13回北海道・東北支部, 第14回関東支部,

2003年43巻「リウマチ」総目次

第15回中部支部、第13回近畿支部、第14回中国・四国支部、第26・27回九州・沖縄支部)／Modern Rheumatology電子ジャーナル版(改訂版)／平成15年度リウマチ登録医募集/「リウマチ基本テキスト」発行のご案内	巻頭
2002年度第4回理事会報告／臨床症例データベース終了について／日本リウマチ財団教育研修委員会・リウマチのケア研究委員会から／第5回環太平洋結合組織学会シンポジウム・第35回日本結合組織学会学術大会合同会議／第19回日本DDS学会／第22回運動器移植・再生医学研究会／リウマチ・整形外科関連国際会議情報	51
日本リウマチ財団・登録医単位認定講演	68
2002年度日本リウマチ学会第15次「リウマチ指導医」認定者	71
2002年度日本リウマチ学会第16次「リウマチ認定医」認定者	71
2002年度日本リウマチ学会「リウマチ指導医」資格更新者	72
2002年度日本リウマチ学会「リウマチ認定医」資格更新者	72
日本リウマチ学会「教育施設」一覧	77
医薬品・医療用具等安全性情報(No. 185)	86
“リウマチ”投稿・発行規定	巻末
略語表	巻末
“Mod. Rheumatol.”投稿・発行規定	巻末

和文誌「リウマチ」 2003年 Vol. 43/No.2

第47回 日本リウマチ学会総会・学術集会	
総会・学術集会案内	91
セッション一覧	102
演題目次	
4月24日	109
4月25日	129
4月26日	150
演題抄録	
特別講演	
免疫のブレーキレセプターPD-1の自己免疫と腫瘍制御における役割…本庶 佑	170
会長講演	
21世紀のリウマチ診療と教育研修—リウマチ学会の役割—…狩野庄吾	171
教育講演	
1. 軟骨再生医学…脇谷滋之	172
2. 小児リウマチ性疾患の診察と考え方…森 雅亮	174
3. リウマチによる頸椎病変—その病態と治療—…戸山芳昭	176
4. 整形外科手術におけるロボットシステム…村田紀和	178
5. ゲノム解析理解のための基礎知識…山本一彦	180
6. 骨髄幹細胞による再生医療…中内啓光	182
7. 関節リウマチの滑膜病変—SCIDマウスを用いた解析—…松野博明	184
8. リウマチのリハビリテーション—内科サイドからのアプローチ—…高杉 潔	186
9. 関節リウマチの肺病変とその治療…杉山幸比古	188
10. リウマチ疾患と眼症状…白井正彦	190
シンポジウム	193
国際ワークショップ	251
ワークショップ	261
症例報告	419
演者氏名索引	469
お知らせ	
第48回総会・学術集会(1)	505
平成16年度リウマチ登録医募集	506
日本リウマチ財団教育研修委員会・リウマチのケア研究委員会から／第5回リウマチ手の外科研究会／リウマチ・整形外科関連国際会議情報	507

日本リウマチ財団・登録医単位認定講演……………517
 医薬品・医療用具等安全性情報 (No. 186)……………522
 “Mod. Rheumatol.” 投稿・発行規定……………巻末

和文誌「リウマチ」 2003年 Vol. 43/No.3

Editorial

リウマチとのかかわりと、poly(ADP-ribose)の研究中の偶然による発見…杉村 隆……………525

綜 説
 抗リン脂質抗体症候群—新しい診断基準と治療—…渥美達也……………528

原 著
 若年性皮膚筋炎に併発する異所性石灰化の実態調査
 宮前多佳子, 森 雅亮, 稲毛康司, 河野陽一, 武井修治, 前田基晴, 村田卓土, 中田修二, 川合 博
 平野幸子, 伊達是志, 北村勝彦, 横田俊平……………538
 リウマチ性多発筋痛症における血清アミロイド蛋白Aの有用性について
 山根隆志, 山内勇人, 安部尚子, 鳥尾直美, 島田玲香, 仙波尊教, 今泉泰彦, 野村哲彦……………544
 リウマチ膝に対する日帰り鏡視下部分滑膜切除術の予後と滑膜組織像との関連性について
 戸田佳孝……………549

臨 床
 75歳以上の高齢期に発症した関節リウマチ…千葉英史, 松下和彦, 芝川温之, 青木治人……………557
 肺高血圧症と糸球体障害を呈した原発性シェーグレン症候群の1症例
 立川裕史, 永野修司, 梅野美一, 織部元廣……………564
 血液透析患者におけるサラゾスルファピリジン腸溶錠の体内動態について
 秋山雄次, 藤巻敏久, 桜井祐成……………569
 成人型Still病と診断後9カ月目に食道癌が発見された1症例
 渋谷祐子, 川田孝夫, 五味朋子……………577
 多発性筋炎の治療中に発症した関節リウマチの2症例
 三好智子, 吉永泰彦, 太田裕介……………583

お知らせ
 第48回総会・学術集会 (2)
 2003年度 (第16次) 指導医の募集/2003年度 (第17次) 認定医の募集および資格認定試験/日本リウマチ
 学会支部学術集会 (第13回北海道・東北支部, 第14回関東支部, 第15回中部支部, 第13回近畿支部, 第14
 回中国・四国支部, 第24・25回九州・沖縄支部) /Modern Rheumatology電子ジャーナル版 (改訂版)
 /平成16年度リウマチ登録医募集……………巻頭
 2003年度第5回理事会報告/第47回日本リウマチ学会学術集会変更内容/日本リウマチ財団教育研修委員会
 ・リウマチのケア研究委員会から/第12回日本脊椎インストゥルメンテーション学会/リウマチ・整形外科
 関連国際会議情報……………591
 日本リウマチ財団・登録医単位認定講演……………607
 日本医学会だより (No. 29)……………618
 医薬品・医療用具等安全性情報 (No. 189)……………620
 “リウマチ” 投稿・発行規定……………巻末
 “Mod. Rheumatol.” 投稿・発行規定……………巻末



和文誌「リウマチ」 2003年 Vol. 43/No.4

Editorial

	変性軟骨の再生とリウマチ…腰野富久……………	623
綜	説	
	免疫と骨代謝のクロストーク…高柳 広……………	624
原	著	
	小児期発症SLEの治療法の変遷とその効果についての検討 ～経静脈的シクロホスファミド・パルス療法の有用性について～ 黒澤るみ子, 梅沢礼美, 小林慈典, 中島章子, 宮前多佳子, 伊藤秀一 今川智之, 片倉茂樹, 森 雅亮, 相原雄幸, 横田俊平……………	632
	人工膝関節置換術及び人工股関節置換術が共に施行された関節リウマチ症例の 下肢アライメントについての検討 川村孝一郎, 桃原茂樹, 戸松泰介……………	638
臨	床	
	高用量エチドロネートが関節周囲の石灰沈着に対して有効であった 塩基性リン酸カルシウム (BCP)結晶沈着症の一例 伊藤彦, 鈴木康夫, 上原立子, 井手美香子, 尾崎承一……………	644
	MethorexateとCyclosporin Aの併用療法が奏功した成人発症Still病の1例 佐々木理恵, 芝浩彦, 金基哲, 大山美穂, 山名二郎, 山名征三……………	649
	非特異性間質性肺炎 (NSIP)が先行した顕微鏡的多発血管炎 (MPA)の一例 武田由希子, 青木昭子, 辻隆, 三角 緑, 出口治子, 井上優子, 上田敦久, 大野滋, 岳野光洋, 石ヶ坪良明……………	654
	小児全身性強皮症3症例に対するシクロホスファミド・パルス療法 岩田直美, 宮前多佳子, 伊藤秀一, 今川智之, 片倉茂樹, 森 雅亮, 相原雄幸, 横田俊平, 近藤 恵, 佐々木哲雄, 池澤善郎……………	660
	ステロイドによるnon-alcoholic steatohepatitisを併発したSLEの1例 釜田 康行, 上村 健, 吉尾 卓, 平田大介, 益山純一, 磯田憲夫, 金井信行, 簗田清次……………	667
	乾癬性関節炎に続発性アミロイドーシスを合併したHTLV-Iキャリアーの一例 川上 勝之, 松本 秀明……………	672
	Poncet病を併発した慢性腎不全透析患者の一例 三木 祐介, 藤田芳郎, 河合良介, 檀原敦, 上野征夫, 伊藤恭彦……………	678
	仮性動脈瘤を伴う血管病変で発症し, バージャー病との鑑別に苦慮したベーチェット病の一例 竹林 匡史, 尾崎 吉郎, 孫 瑛洙, 永濱 美紀, 福原 資郎……………	683
	病理組織学的に腎障害を認めず, MPO-ANCA陽性の肺胞出血を呈した強皮症の一症例 山田 徹, 中島洋, 田中栄一, 中島亜矢子, 寺井千尋, 原まさ子, 鎌谷直之……………	690
	血球貪食症候群を発症した関節リウマチの1例 関内真紀穂, 中林 公正, 丸茂 朋史, 有村 義宏, 山田 明……………	696
	脳炎を伴う汎発性帯状ヘルペス感染症をきたすも救命し得たmicroscopic polyangiitisの一例 松本 純子, 中島亜矢子, 諏訪昭, 安木良博, 安井俊行, 稲田進一……………	703
医学用語委員会の舞台裏…金井芳之……………		710
お知らせ	巻頭言……………	宮坂信之
	学会理念……………	越智隆弘
	第48回総会・学術集会(3)支部学術集会(第13回北海道・東北支部, 第14回関東支部, 第14回中国・四国支部, 第27回九州・沖縄支部)……………	巻頭
	2003年度第1回理事会報告……………	711
	2003年度定時評議員会報告……………	719
	2003年日本リウマチ学会総会報告……………	732
	学会組織および定款・諸規則……………	735
	日本リウマチ財団・登録医単位認定研修講演……………	754
	"Modern Rheumatology"投稿・発行規定……………	巻末
	編集後記…田中良哉……………	巻末

(中)日本リウマチ学会の英文誌 (Modern Rheumatology) 投稿・発行規定 (2003年12月1日改訂)

目的と内容

Modern Rheumatologyはリウマチ学および病理学、生理学、臨床免疫学、微生物学、生化学、実験動物学、薬理学等の関連分野におけるオリジナル論文を英文で掲載する。

症例報告および広く読者に興味を持たれるテーマに関する綜説も受け付ける。また、内容が独創的かつ明快で、科学的価値の高い小論文も掲載を考慮する。

LetterはModern Rheumatologyの既掲載論文およびリウマチ学、有限責任中間法人日本リウマチ学会に関する事項に対するコメントに限る。速報は症例または研究上の知見に関するごく短い報告とし、抄録は付けない。

その他の記事も編集委員会の判断により掲載する。

論文は本学会の会員を問わず受け付ける。

年4号発行する。原稿は電子メールで、常時受け付ける。

投稿条件

著者は、提出論文の内容のいかなる部分も未出版であること(ただし、抄録の形式で、または出版物になった講義、解説記事、学位論文の一部は可とする)、また、他の出版物への掲載予定のないことを誓約しなければならない。他の著作物からの直接引用や図表を含めざるをえない場合には、それらの著者と著作権保持者からの英文での使用許可を提出論文に添付する。

提出論文が査読後受理された場合、その著作権を有限責任中間法人日本リウマチ学会とシュプリンガー・フェアラーク東京㈱に自動的に譲渡すること、また論文あるいはその一部が言語の如何を問わず、著作権保持者の許可なく他の出版物に掲載されないことを誓約する。

論文の著者及び共著者は、投稿原稿が他で一切発表されていないことを誓約する文書を、全員署名の上、提出する。

原稿形式

原稿は英文で記述し、抄録、本文、謝辞、文献、図説、表を含めA4サイズにダブルスペースで作成する。各パートは改頁し、前記の順に原稿ナンバーをつける。

英文は英語を母国語とする研究者が読んで正確に理解できるものであること。校閲者から英文の改善を求められた場合は、英語を母国語とし関連分野に詳しい者の校閲を受けること。この場合、編集委員会が斡旋する人の校閲を受けることが出来る。ただし、その費用は著者負担とする。

標準的な略語や単位を使用する。略語は初出の際にスペルアウトする。略語は標題では使用しない。薬品や化学物質は

一般名を使用する。

掲載論文の原稿は返却しない。

原稿枚数

原著および綜説は、30枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)。症例は、文献を含め20枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)。図表は1点につき原稿1枚と換算する。

刷り上りが16ページを越えた場合には、その費用を請求される。Letterおよび速報は文献を含め4枚以内とし、抄録は付さない。

表紙

表紙には、論文の種類(原著、症例等)、標題、全著者名、著者の所属とその住所、本文枚数、図説、図表の点数を記載する。さらに、5語までのキーワード(アルファベット順に)、連絡先となる著者名や住所・電話番号・ファックス番号・e-mailアドレス、必要があれば編集委員会へのコメントを記載する。

抄録

原著は、目的、方法、結果、結論を200語以内で簡潔に記述する。

症例、綜説は各々75語、200語以内とする。

抄録中に小見出しは付けない。

本文

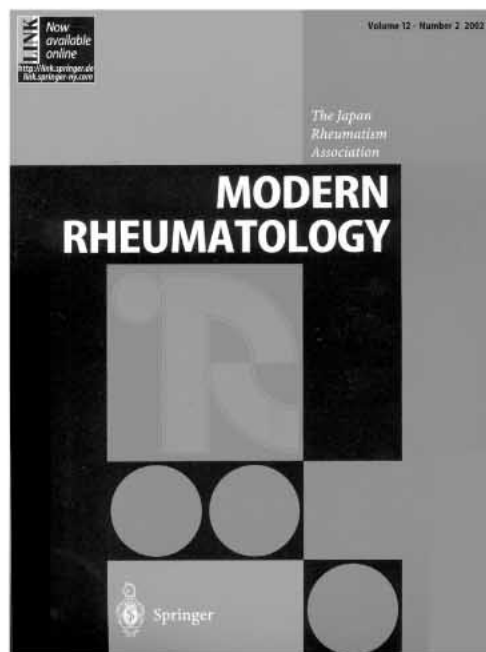
実験的な内容の論文については、Introduction, Materials and Methods, Results, Discussionの構成で記述する。

表

表は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各表は個々に改頁し、簡潔な題をつける。表中で使われている主要な略語を表の脚注で説明する。

図

図は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各図には簡潔な図説を付ける。図説は本文の後に、図とは別に一括して記載する。



図はコラムの幅 (8.6cm) または印刷領域 (17.6×23.6cm) に合わせた大きさにする。組み合わせの図は、印刷領域を越えない範囲 (図説も考慮する) でまとめる。その際図番号を明記する。

カラー図は受け付けるが、著者はその費用を請求される (カラーページ1 ページ目¥110,000, 2ページ目以降は1ページ当たり¥60,000)。カラー図はカラー、白黒いずれでの印刷を希望するか表紙に記載する。

図や写真の電子画像送信も論文のオンライン審査用に受け付けるが、著者は掲載通知を受理後、各号に掲載されている出版社の電子投稿のスペックに従い、出版用の電子画像を提出する。

<線画>最終的に印刷を希望する大きさで鮮明であること。文字は明瞭で読みやすくする。

<ハーフトーン図 (写真を含む)>適切なコントラストで、的確な角度と最終的な印刷サイズで提出する。

光学顕微鏡写真の場合、図説中に染色法を示す。電子顕微鏡写真は寸法を示すために写真中にバーを入れ、図説中でそのバーの数値と単位を示す。

文 献

文献はアルファベット順ではなく、本文中での出現順に番号付けする。文献データは、著者の責任をもって、正確に記載する。

私信や未出版データは文献リストに含めるべきではないが、本文中に括弧付きで引用することができる。(例: A, Aoki 1999 personal communication) それが他者のものである場合は、直接の引用を認める著者の署名入り手紙を提出する。

他誌で掲載受理されていて未出版の論文は文献リストに含めることはできるが、括弧付きで “In press” と記載する。

文献リストには、引用該当ページおよび最初の6人までの著者名を、それを超える場合は “et al” を付す。雑誌名は Index Medicus に準じる。日本語で書かれた論文は、例2の形式による。文献は本文中では上付き文字で引用する;

[例] Ames et al. 1 reported...

<雑 誌>

1. Ames PRJ, Lupoli S, Alves J, Atsumi T, Edwards C, Iannaccone L, et al. The coagulation/fibrinolysis balance

in systemic sclerosis: evidence for hematological stress syndrome. Br J Rheumatol 1997; 36: 1045 - 50.

2. Kamihara S. Case of Sjogren syndrome associated with idiopathic monoclonal IgA rheumatoid factor and pyroglobulinemia (in Japanese). Rinsho Ketsueki. In press.

<単行本>

3. Cassidy JT. Systemic lupus erythematosus, juvenile dermatomyositis, scleroderma, and vasculitis. In: Kelly WN, Harris ED Jr, Ruddy S, Sledge CB, editors. Textbook of rheumatology. 5th ed. Philadelphia: WB Saunders; 1997. p. 1241-64.

<Proceeding>

4. Bengtsson S, Solheim BG. Enforcement of data protection, privacy and security in medical informatics. In: Lun KC, Degoulet P, Piemme TE, Rienhoff O, editors. MEDINFO 92. Proceedings of the 7th World Congress on Medical Informatics; 1992 Sep 6-10; Geneva, Switzerland. Amsterdam: North-Holland; 1992. p. 1561-5.

別 刷

著者には別刷30部を無料で提供する。それ以上の部数が必要な場合には、100部までは50部単位で、100部以上は100部単位で注文を受け付ける。

論文審査

提出された論文は、少なくとも2人のレフリーと編集委員により審査され、必要な場合には言語および内容について訂正を求める。編集委員は論文の採否および掲載順序を決定する。

著者は、論文の訂正と再提出を求められた場合、2ヵ月以内に応じられない場合は、掲載を辞退したものと見なされる。

原稿送付先および問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目1番24

オカモトヤビル9F

有限責任中間法人 日本リウマチ学会

Modern Rheumatology編集委員会

Tel 03-5251-5353 Fax 03-5251-5354

Email: gakkaim@ryumachi-jp.com



●情報化委員会 澤井高志(担当理事)
天野宏一(ニューズレター委員長)/(委員) 諏訪 昭・中島亜矢子・田中真希

ニューズレター 2003年・創刊号 発行日2003年12月24日
発 行 者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F
TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354
E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL http://www.ryumachi-jp.com
デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5
TEL.03-5215-6560 FAX.03-5215-6560 E-mail creat-m2@sea.plala.or.jp
印 刷 社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4
TEL.03-3591-1025 FAX.03-3591-0846

専門医試験受験者に待望の直前対策本刊行

12月15日発売

リウマチ専門医試験

例題と解説

(中)日本リウマチ学会 編集

メジカルビュー社発行

B5変型判・280頁

定価(本体7,000円+税)

本書はリウマチ専門医試験の第1回から第13回までに出题された実際の「問題」に「解答」と「解説」「ポイント」を加え、試験対策にもリウマチ学の知識向上にも役立つことを目的として刊行したものです。

収録問題数は503問で、リウマチ学会専門医資格認定委員や各委員から推薦された専門医により、問題の選択および解説の作成をおこないました。

「解説」および「ポイント」には正解を導くための解説と、問題を解くにあたっての必要知識とを記載し、単なる問題集にとどまらず、知識の再整理としても役立ちます。

是非、専門医試験直前対策としてご活用賜りますようご案内申し上げます。

下記にご記入のうえ最寄りの医学書取扱店にご注文ください。
(弊社でも注文を承りますが送料がかかりますので、書店へのご注文が便利です)

■下記書籍を注文します

*この欄に必要事項をご記入のうえ書店にお渡しください

書名	リウマチ専門医試験 例題と解説			メジカルビュー社刊	[] 冊
お名前				電話	
ご住所 病院名					

■書店様へ (下記に番線印・冊数をご記入のうえ、メジカルビュー社宛 FAX03-5228-2059 にてご注文ください)

番線印	書名	定価	条件	冊数
	メジカルビュー社刊 リウマチ専門医試験 例題と解説 ISBN 4-7583-0351-7	定価 (本体7,000円+税)	注文	冊

発行
発売 **メジカルビュー社**

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30
TEL.03-5228-2050 FAX.03-5228-2059

<http://www.medicalview.co.jp>

CONTENTS

- **巻頭言** Newsletterの発刊にあたって——澤井 高志……………1
- **INFORMATION**
 - 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会の御案内…………… 2～5
- **コラム** アメリカ リウマチ学会に参加して——石ヶ坪良明……………6
- **各支部だより** 第14回 関東支部学術集会……………7
- (中)日本リウマチ学会認定の『教育施設』一覧……………8～10
- 会員の皆様へ……………10
- 2003年「リウマチ」43巻 総目次……………11～14
- (中)日本リウマチ学会の英文誌 (Modern Rheumatology)
投稿・発行規定(2003年12月1日改訂)……………15

有限責任中間法人

日本リウマチ学会

発行者／有限責任中間法人 日本リウマチ学会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F

TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354

E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL <http://www.ryumachi-jp.com>